



彩の国
埼玉県



埼玉県熊谷家畜保健衛生所

住所 熊谷市円光1-8-30

電話 048-521-1274/FAX048-526-1063

E-mail k211274@pref.saitama.lg.jp

家畜衛生だより

令和7年8月発行 No.7-7

近県で牛ボツリヌス症が発生しました！

近県の一農場において、複数の牛が起立不能・急死の症状を示し、牛ボツリヌス症と診断される事例がありました。

牛ボツリヌス症とは



ボツリヌス菌が産生する毒素により、牛に**突然死**を引き起こす疾病です。品種や月齢に関係なく発症し、後躯麻痺、起立不能等を示し、半日から2日で死亡します。

高い致死率により牛の**大量死**を引き起こし、**畜産経営に大きな損害**を与えることから注意が必要です。

発生の原因



ボツリヌス菌は熱に強い『芽胞』を作って土壌中などに広く分布しており、条件が揃うと増殖して毒素を産生します。毒素に汚染された**変敗サイレージ**や芽胞を含む**カラス**や**小動物**の死体や糞便が混入した餌を牛が食べることで発症します。

対策のポイント

- ☑ 品質の悪いサイレージは牛に与えない
- ☑ 野生動物、野鳥(特にカラス)の侵入防止
- ☑ 牛舎の清掃・消毒(塩素系、ヨード系、アルデヒド系が有効)
- ☑ ワクチン接種による予防

異常を認めたらすぐに診療獣医師または家保までご連絡ください！

国産とうもろこし子実は かび毒濃度を確認してから給与しましょう

安全な飼料から安全な畜産物へ

飼料用とうもろこしの子実の生産では、とうもろこしサイレージに比べて栽培期間が長いことなどから、かび毒に汚染されるリスクが高くなります。

かびが産生するかび毒のうち、アフラトキシン B1というかび毒は家畜の体内でアフラトキシン M1に代謝されて、乳中に検出される可能性があります。

そのため、(飼料メーカーや飼料販売店を介さず)耕種農家との相対取引をしている場合、畜産農家自ら生産したとうもろこし子実を飼料に使用する場合などは、**アフラトキシン B1 の濃度が基準を下回っているか耕種農家に確認の上、給与しましょう。**

管理基準：アフラトキシン B1

0.02mg/kg



保管時の注意

- 定期的に状況確認を行うことが重要
- 雨や雪などを防ぎ、水濡れさせない
- 湿気がこもらないように、倉庫の換気をする
- ねずみ、昆虫による食害などを防止する

